大人になるっておもしろい？ (2)

（ある大学での講演で、筆者は悩むことについて触れました。）

話し終わって演台の上を片付けていると、三、四人の若い女性が階段を下りてきたと思うと、そのうちの一人が私に声をかけてきました。彼女は、ここの※大学院生ですが、と名乗った後、真剣な面持ちで、確かめるように言ったものです。

「先生、本当に悩んだっていいんですよね」

その日、どんなテーマで話したのだったか、テーマ自体は憶えていないのですが、講演の中で私は、私自身が当時日々向かい合っていた勤務先の短大の学生たちの多くが悩むことを否定的に捉えていることにふれ、せっかくの悩みを否定的に捉えるのはもったいないことではないか、と話したのでした。

大学院生のことばに、私は、①ここでもそうだったかと思うと同時に、院生にまでなってまだそうかと内心ひどく驚いたのを憶えています。

後日、私は勤務先の学生たちとさらに語らい、卒業生たちとも語らって、悩むことを否定的に受け取り、――確かに快か不快かで測れば、不快のほうに目盛りの針は傾くでしょうが――「できることなら避けて通りたい」を飛び越えて、してはいけないこととまで考えている人が一〇代、二〇代に限らず、四〇代の人々にもけっこういることを知ることになって、ことばを失ったのですが……。

（中略）

悩みなんてないにこしたことはない、と人は言います。私もそう思います。強いて悩むことはないと。でもそうは言っても、生きていく日々、私たちはさまざまな悩みを抱え込んでしまうものです。解決不能と見える問題にも、私たちは突き当たってしまう。どうしたらいいか、私たちは途方に暮れます。解決の糸口が見つからないまま悶々とした日が続いたりします。悩みというのは、解決不能と見える問題にぶつかってから、解決への糸口が見つかるまでの足踏みの時期の精神的苦痛を指すのでしょうか。いっぱい迷い、自己嫌悪に陥ったり、無力感にさいなまれたり……。

そんな状態に身をおくことは、確かに無駄な、非生産的な行為と言えなくもありませんが、だからといって悩むのはよくないとか、避けるべきだということにはならない。機械ではあるまいし、人はそんなに合理的には生きられません。けれど、余分と考えられるもの、無駄と考えられるものはことごとくそぎ落としてゆこうとする空気は、今、日本の社会では日々強まりつつあります。この空気の目に見えない強制力がひょっとすると若い人たちに、さらにはもっと幅広い年齢層の人々に、②悩むのはいけないこと、と思わせているのかもしれません。確かに悩み、※逡巡する若者はいたるところで分の悪い立場に立たされているように見えます。学生たちの就職の決まり具合を見ているだけでも、それは容易に察せられます。悩むことはものを考える第一歩なのに。

（清水真砂子『大人になるっておもしろい？』岩波書店　第5信による）

※大学院…大学の学部の上または独立に設置される機関。大学院生は、大学院の学生のこと。
逡巡…決断ができず、ぐずぐずすること。ためらうこと。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「ここでもそうだったか」とあるが、筆者はどのように思ったのか。次の文の（　）に当てはまる言葉を、本文中から十四字で探し、最初と最後の三字を答えなさい。

この大学の学生も、（　　）のかと思った。

〔　　　〕～〔　　　〕

(2) ——線②「悩むのはいけないこと、と思わせているのかもしれません」とあるが、なぜ今の社会では悩むことがいけないことだとされているのか。本文の内容から考えられる理由を選びなさい。

ア　今の社会は機械のように合理的に生きることができ、解決不能と見える問題に突き当たる機会はなくなっているから。

イ　今の社会は無駄をなくすことがよいこととされており、悩むことのように非生産的に見える行為は否定的に捉えられるから。

ウ　今の社会は悩み、逡巡する若者たちが増えており、解決の糸口が見つからず苦悩（くのう）することが問題となっているから。

〔　　〕

(3) 筆者の「悩むこと」に対する考えに当てはまるものを、二つ選びなさい。

ア　悩むことは決して不快なことではなく、問題に突き当たっても精神的苦痛を感じることなく前向きに考えるべきである。

イ　悩むことには無駄で非生産的な一面が確かにあり、解決できない問題で悩み、自己嫌悪に陥るのはよくないことである。

ウ　悩むことは生きていく上でどうしても起こることであり、してはいけないことと捉えるのは無理がある考え方である。

エ　悩むことは何かを考えるきっかけにもなることであり、否定的に捉えてばかりいるのはもったいないことである。

〔　　・　　〕